



たろばな

一般社団法人
日本ボーイスカウト
静岡県連盟

〒420-0068
静岡市田町1丁目70-1
(静岡県青少年会館内)

◇第23回 世界スカウトジャンボリー◇特集 世界中のスカウト仲間が、山口県きらら浜に集合!!



CONTENTS

いろいろな国のスカウトと
交流して、世界中に友達が出来た! 2

でも、やっぱり最高!! 4
*参加したスカウトの感想、

イギリスのスカウトが
ホームステイをエンジョイ 8

おめでとう友情章 13

いつも元気だっ! ビーバーだより 14

カブつうしん 14

女性指導者セミナー
ヤング指導者セミナーを開催 15

お知らせコーナー 16

- ・団委員実修 第16期 参加者募集中
- ・安全セミナー静岡第7期
- ・静岡子ども体験フェスティバル



いろいろな国のスカウトと 交流して、世界中に 友達が出来た!

主会場：山口市阿知須きらら浜
会 期：2015年7月28日(火)～8月8日(土)

第23回世界スカウトジャンボリー(23WSJ)が、7月28日～8月8日の12日間にわたり山口県で開催された。152の国と地域から34,000人のスカウトが参加し、様々なプログラムを通して国際交流と世界の平和の大切さを体験した。

静岡県連からも、派遣団257名(本部6名、隊指導者31名、スカウト220名)大会運営スタッフ54名 合計311名が参加。

大会期間中は連日の猛暑でしたが、広島原爆記念館訪問、山口県内の小学生や町の人々との交流、お国自慢料理のサービス、ハブステージでのダンス披露など、いろいろな国のスカウト達と一緒に活動し、話し、遊んでたくさんの友達を作ることが出来ました。

会場案内図



日々感動

体験



熱き友情



良き思い出



次回の世界スカウトジャンボリーは、
4年後の2019年にアメリカで開催

「あっ、という間に過ぎ」てしまったジャンボリー でも、やっぱり最高!!

英語の必要性

三島地区 三島第5団ベンチャー隊 山本 博斗



私は、世界スカウトジャンボリーに行き、英語の必要性がわかりました。正直言って、英語を上手く話せなくてもジェスチャーを使ったりすれば、何とか通じるのではないかと思っていました。しかし、ジェスチャーで通じる範囲はとて狭く、自分の考えがいかに浅はかだったと思知らされました。ジャンボリー期間中、Hello、Thank you、Excuse me、Sorry、Would you take a picture with me?しか使った記憶がありません。写真撮ってもいいですか?と言っても、その後の会話が進展せず、悔しい思いをしました。

海外のスカウトは、母国語と英語を話せます。スウェーデンの隊と交流した時、10歳頃から英語の勉強を始めた話を聞きました。私が、英語を習い始めたのは中学入学時の12歳頃です。既に2年の差がある!と感じた以上に、流暢に英語を話す姿を見



て、こんなにも話す能力で差がついているかと驚愕しました。普段、英語の文法ばかりを覚えようと努力しているけど、話す練習は何一つしてないので、こんなにも話す能力で差をつけられているのではないかと思います。

私は2019年開催予定の24WSJに、ISTとして参加したいと思っています。ISTになるために、そして世界のスカウトと楽しく交流するために4年間しっかりと英語を話す能力を身につけたいです!



まあるい帽子

三島地区 西南第1団 VS隊 鈴木 悠斗 (日本派遣団 505隊)

世界ジャンボリーというのはやはり世界の文化が入り混じっている。それは各国スカウトの入場にも表れていた。そんな中で私はメキシカンハットに一目惚れしてしまい、周りの人に「俺はあの帽子を絶



右が私、左がK君

対に手に入れる。」と宣言した。

カルチャープログラムのメキシコのブースでは、あのメキシカンハットが…!!

様々な種類を全て被らせてもらうと一層思いが強くなった。それからは交換をするために自分の持ち物の中で一番人気だと思った日本の旧制服を持ち、メキシカンハットを持ったお姉さんのところへ。もう日本の旧制服は持っていると言われてしまった。なんとそのお姉さんと制服を交換をした相手は我が505隊のK君だった。彼とはどちらがわらしべ長者になれるかという対決をしていた。そしてジャンボリーも半分くらい過ぎた頃、英語が得意なK君が笑顔で見せたいものがあると言って来た。なんと堪能な英語と熱い思いでメキシカンハットを手に入れてきたのだ。やっぱりものすごく羨ましかった。それから私たちにはメキシカン双子コーデを試してみたい、という謎の目的が出来て、とってもテンションアゲアゲだった。

ジャンボリーも終わりに差し掛かってきた頃、メキシカンハットを持った別の優しそうなお姉さんと話しているうちに、お姉さんは私が腰に付けていたツールナイフを指差した。そしてもう一つ持っていた大きな多徳ナイフとともに手渡した。こうして私、鈴木悠斗はメキシカンハットを手に入れた。私は改めてスカウトの友情、そして心は国境を超えるんだと実感した。そして名刺を交換し、握手をしてサイトに戻り、念願の双子コーデも果たしたのであった。

最初は私がその帽子に憧れ、その欲しいという一心だったがその帽子をきっかけにスカウトとしての大事な「思い」というものを自分なりに得ることができた。

協力してくれた仲間たち、そして世界のスカウトの心の輪が詰まったこのメキシカンハットは私にとって、世界ジャンボリーの友情の証になった。

WSJのススメ

鳥田地区 金谷第1団 VS隊 鈴木 崇弘

私はスウェーデンで行われた前回の22WSJに中学2年生で参加し、ワールドフードコートやカルチャーゾーンなど、外国の食文化や普段のスカウト活動では体験することのできない様々な経験を積む



ことができ、また参加したいと思っていました。そこで、今回の山口県きらら浜での23WSJでは金谷1団の後輩スカウトたちと共に、全体のほんの一部ではありますが多くの貴重な体験を積むためにデイビジターへ参加しました。次回のWSJはアメリカとカナダでの開催です。きっと、北米の雄大な自然の中で世界各国のスカウト達と共に様々なプログラムに参加することで友情の環を格段に広げ、開会・閉会セレモニーでは喜び、悲しみ、そして楽しみを国境を越えて分かち合うことが出来るでしょう。

また、ジャンボリーの日常では言葉が通じなくても今までに培ってきたスカウト精神は通じ合うことが出来ます。だからこそ私も22WSJでは最年少での参加であっても臆することなく大会を満喫することが出来ました。以上のことを踏まえ、今後、参加資格のあるスカウトはぜひWSJに参加することをお勧めします。WSJでの経験はその後の各隊でのスカウト活動のみならず、今後の人生においても大きな財産となります。この手紙が後輩スカウトたちの良きターニングポイントとなることを心から願います。



「あっ、という間に過ぎ」てしまったジャンボリー でも、やっぱり最高!!



世界ジャンボリーを通して

志大地区 焼津第1団ボーイ隊 齊藤 沙耶

私が世界ジャンボリーで一番感じたことは、世界には様々な人種や民族があって、それぞれの文化や生活があるということです。

例えば、日本ジャンボリーの時は周りも日本人だから同じ感じだったけど、外国人だと、テンションなどそういうものが違って、やっぱり世界なんだなと思いました。プログラムのカルチャーでも、文化の違いを感じました。

また、物々交換など、交流も日本ジャンボリーの時に比べて、積極的にできたと思います。少しの英語で、結構交流できるものだなと、驚きました。

広島ピースプログラムでは、原爆ドームや原爆の跡が残る数々の資料を見て、原爆のすさまじい威力、戦争の悲惨さ、平和の大切さを強く感じました。

この貴重な経験を大切にしていきたいです。



23WSJへ参加して

富士地区 富士第8団VS隊 藤島沙公良 (派遣隊第506隊 上級班長)

23WSJを思い返して感じる事は、「楽しかった」というのはもちろんですが、他にやり残した事に対する「後悔」と2週間という時間への「あっけなさ」があります。2週間と聞いた時や現地で生活をしている時は「長い」と感じていました。しかし、振り返ってみると驚くほど短かったのだと思います。事前にもっと勉強しておけば、現地でもっ



と有意義な時間を過ごせたのでは…という反省もあります。

「上級班長をやらせてもらう」という事が私の中で16NJとの大きな違いでした。初めてやる上級班長に戸惑い、また今まで関わる事なかった地区との合同隊という事で、みんなと仲良くなれるのか不安でした。しかし始めてみると、私が劣っている事は周りのみんなが手を差し伸べてくれ、たくさんの優しさを貰いました。英語が苦手と外国のスカウトと関わる事が怖かった私ですが、拙い英語を真剣に聞いてくれ、会話を成立させてもらい英語が楽しいと感じました。交流をした際に知っている日本語を尋ねると「ありがとう」が必ず出てきた事で、感謝の言葉は世界共通で大事なのだと改めて思いました。

23WSJを終えて、指導者の方々を始め、たくさんの方にお世話になりました。しかし、それ以上に感謝を伝えたいのが一緒に活動した隊の仲間達です。「日本で行われたWSJへ参加した事はすごく貴重な経験です。一緒に活動できて楽しかったです。ありがとう。」と。

23WSJを経験して

浜松東地区 浜松第22団 ビーバー隊隊長 鈴木 文志

世界ジャンボリーの目的を事前訓練の場でスカウト達に聞いたところ、ほとんどのスカウトが海外のスカウトと交流することをあげました。

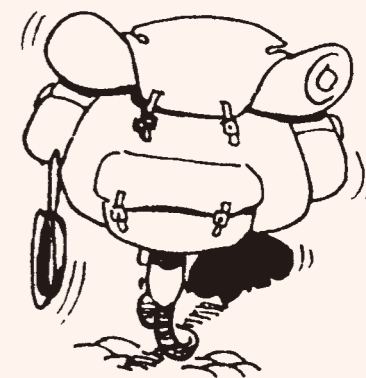


大会期間中、スカウト達は自分たちの最大限の英会話力で、海外のスカウトや指導者と交流をしていました。そうした交流やジャンボリーの生活のなかで、日本と海外の文化や宗教、習慣の違いを肌で感じたことと思います。

スカウト達には、戦後70年の節目でもある年にこのような経験を通じて、これからの国際について考えてもらいたいと思います。

今回のジャンボリーで生活を共にしたスカウトに期待することがあります、それは今回参加したスカウトの多くは、次の日本ジャンボリー、世界ジャンボリーには参加スカウトとしてはおそらく参加できないでしょう、次のジャンボリーでは一人でも多く、奉仕または支援する立場として関わってもらいたいと思います。また、何年かして今回参加した海外のスカウトと偶然に出会った時には、敬礼と握手を交わすスカウトが居ることを期待します。

最後に、私は後半日程の8月1日から8月8日で508隊の副長として参加させて頂きました、大会期間の半分の日程でしたが貴重な経験が出来たことに対して、ISTをはじめとした大会スタッフの方々、508隊の指導者の方々、スカウトに感謝いたします。



23WSJ

清水地区 清水第19団 VS隊 鍋田 萌 日本派遣団 第0506隊 玉露班次長

私が今回のジャンボリーで目標にしていたことは、外国の人とたくさん話すことでした。

私は高校一年で少しは英語の勉強もしているため、「まあ話せるだろう」と思っていました。でも、実際はそんなに甘いものではなく、ほとんど外国の人とコミュニケーションをとることができませんでした。

世界ジャンボリーにせっかく参加できるのだから、外国の人の友達をつくらうと思っていたのに、話すらまともにできなくて本当に悔しかったです。

しかし今回23WSJに参加して、英語で外国の人と話せたら絶対楽しいという事を身をもって体験しました。

私はこの大会に参加する前は、将来英語はそこまでできなくてもいいかなと思っていました。でも、今は英語をしっかりと学びたいと本気で思っています。

あと4年間で外国の人とコミュニケーションをとる能力を身に着けて、もう一度世界ジャンボリーに参加し、今回のリベンジをしたいとおもいます。23WSJは私のこれからの人生に大きな影響を与えてくれたと思います。





イギリスのスカウトが ホームステイをエンジョイ!

第23回 世界スカウトジャンボリーに参加したイギリスの4隊が、富士・静岡・浜松でホームステイを体験し、日本の家庭・文化に触れ、たくさんのスカウト・保護者との交流を楽しみ、素晴らしい思い出を作って帰国しました。



- 富士 第26隊(エイボン)
- 静岡 第14隊(ケント、ウエストサセックス)
- 浜松 第24隊(グロチェスター、コーンウォール)
- 浜松 第34隊(ノーフォーク、レスタシャー)



ホームステイでの出会い

浜松東地区 浜松第 11 団ビーバー隊 副長 加藤 良美



ホームステイで出会ったイギリス隊の2人の少女は、明確な夢をもち、常に前向きで、異国の地でも自信に満ちあふれ、何でも吸収しようとする気迫さえ感じられました。浜松城や神社、花火の見学、茶道や野菜の収穫、娘の学校での部活動体験、昔遊びや買い物等を通して、最初のぎこちない関係が少しずつも解けてきました。

会話の中で、イギリスと日本の文化や生活面での様々な違いも知りました。彼女たちは、家族に日本の食事を味あわせたいと、醤油や味噌、お茶、家族分の箸と湯呑を購入しました。私達が彼女達に伝えた日本の文化が、遠きイギリスの地で少しでも思い出して頂けたなら、この上ない喜びを感じます。

私も娘も、お別れの際には、頬を伝わる涙が止まりませんでした。イギリスの我が家へ到着するとすぐに「素晴らしいときを過ごすことができるとも感謝しています。ありがとう。」というメールが届きました。

たとえ国が違って、言葉が通じ合わなくても、お互いを認め合い、尊重し、大切に思う気持ちさえあれば、心を通わせることができるということを実感しました。

2人の少女と出会い、2日間を過ごした経験は私達家族の大きな財産となりました。

ありがとうございました。



23WSJ ホームステイ

浜松東地区 浜松第 15 団ボーイ隊 隊長 前田 堅太郎



7月末に23WSJに関連して、イギリス隊2名のスカウトのホームステイの受け入れを行いました。私には2人子供(VS,BS)がいますが、WSJに参加できない代わりに、少しでも国際交流の経験ができればと思い、受け入れを決めました。初日はドライブしながら浜松市の紹介をしたあと、浜松城や五社神社に行き、日本の文化に触れてもらいました。あと、100円ショップは日本的なものが安く購入できて喜んでいました。夕食は回転寿司に行き、初めて見る食材に興味をもって色々挑戦していました。夜はスカウトが自分の家族や町の写真、お土産をたくさん持ってきてくれたので、それをネタにいろいろな話ことができました。2日目の朝食は、少し気を使って洋食(パン)にしましたが、スカベン(おにぎり)も食べてもらい、活動の時の昼食を良くおにぎりにする理由を教えました。ホームステイは初めての経験であり、言葉や文化の違いなど、色々不安がありましたが、なんとか無事終わることができました。子供も臆することなく、なんとかやり取りしようとするので言葉は通じなくても、交流はできたと思います。短い時間でしたが、子供(スカウト)だけでなく、自分にとっても貴重な経験ができ、これをきっかけに、今後も海外のスカウトと交流が続けていければと思います。

23WSJ 微力ながらお手伝い

浜松東地区 浜松第 21 団カブ隊 隊長 杉本 秀男

長男が浜松 21 団 BVS 隊に入団したのを皮切りに我が家のスカウト活動も早 15 年目となりました。

思い起こせば 2007 年イギリスでの 21WSJ に参加した自団 VS 隊の K 君の帰国報告会を聞いた長男(当時は BS)が『次の世界ジャンボリーに僕も行きたい!』と言い出したのが、世界ジャンボリーを意識し始めたきっかけで



す。その後長男は念願が叶い 2011 年にスウェーデンで開催された 22WSJ に参加。いよいよ日本での 23WSJ となりました。次男が 0508 隊で WSJ に参加することとなり、さて、自分も何か WSJ のお手伝いできるものはないものかと考えました。親だけでは出来ない貴重な経験を息子たちに与えてくれたボーイスカウト活動の四年に一度の世界祭典でなにか恩返しをしたかったのです。

ホームステイ受け入れや WSJ 会場まで出向くことは仕事の関係でちょっと無理。考えた結果、地区で実施する UK 隊ホームステイ組の歓迎セレモニーの際の調理のお手伝いすることにしました。

深夜のバスに乗って浜松に到着する UK 隊 40 名の朝食と歓迎セレモニー後の懇親会の流しそうめんの準備のお手伝いです。前半、後半の2回の奉仕の間、あまり厨房から出ることもなく、交流と言えほどのことは出来ませんでした。慣れない箸を使いながら素麺を食べる UK スカウトたちの笑顔を見て、お手伝いに来てよかった



など感じました。

もし、スカウト活動にお子さんを送り出しているだけの方がいらっしやったら…『できることから始めませんか?』

イギリス隊スカウトを迎えて

浜松地区 進歩委員長 (浜松第 7 団) 杉山 きよ子

23WSJ に参加のイギリス隊 80 名を前後 2 回で浜松の地に迎え 2泊3日の短期でしたが日本を楽しんで頂きました。青少年の家に一泊した後スカウトたちは、それぞれホストファミリーの家に出発のあと残ったリーダーたちに呈茶をしました。会議室に掛け軸、花をあしらって即席の床の間を作り机、イスを配し茶室に見立ててお客様をむかえました。前半は、23WSJ で野点をして国際交流、プロジェクトを組んだスカウト 2 名が中心になってお点前を披露。ゆかた姿の少女 2 人がお運びのおもてなし。イギリス隊リーダーたちにもゆかたを用意。体格の立派な方々に日本人サイズは小さくて皆さん膝丈のつんつるてん状態。それでもそれが逆に場が和んで互いを見ながらワイワイ楽しんでくれました。恐る恐る和菓子を食べ、出された抹茶を飲んだあと二服目は自分で茶筌を振って茶をたてる体験してもらいましたが帛紗や柄杓にトライするリーダーも居て今いるその場を十分に楽しもうとする様子が伺えました。抹茶も小豆あんのお万も少々勝手の違う味のようなのですが、これが日本の味と楽しんでもらったようです。掛け軸や道具の説明も通訳の方に助けてもらいながら、たどたどしいものでしたが一生懸命に理解しようとする様子でした。今を楽しみ、未知なことに挑戦する態度はボーイスカウトはこの国も同じと感じた今回の、おもてなし、呈茶でした。

静岡地区にようこそ

イギリス 14 隊のホームステイプログラム紹介

静岡地区 静岡第 14 団ボーイ隊 隊長 茶山 和敏

23WSJ 終了後、静岡地区ではイギリス 14 隊の隊員 36 名と 4 名の指導者を迎え入れて、静岡市青少年育成課との共催でホームステイプログラムを行いました。

8 月 8 日の 13 時に、WSJ と長旅の疲れも見せず、イギリス 14 隊の一行が到着しました。そして、歓迎式典後に、スカウト関係を中心としたホストファミリーの家庭に分かれて、一泊二日でホームステイを体験してもらいました。日本の家庭を体験でき、その中で、志向を凝らした家庭料理や静岡市内の名所めぐりなどを堪能して、本当に楽しかったようです。

翌日 (9 日) の 14 時から、静岡市長の肝いりで、駿府城公園内の紅葉山庭園茶室施設と東御門の異櫓を特別に貸し出しいただき、日本文化体験会を行いました。常葉学園・静岡英和学院の高校生と辻村和服専門学校の学生にもご協力いただき、茶道、書道、折り紙、琴演奏、浴衣と忍者の着付け、を体験してもらいました。イギリス隊員にとっては、どのプログラムも初めて経験する日本文化で、とても新鮮で興味深く体験できたと喜んでいました。

そして最後に、静岡地区が主催して、ポトラック形式のフェアウェルパーティーが行われ、清水・志太・島田地区の指導者や隊員も交えて、イギリス隊員と静岡中部地区のボーイ隊およびベンチャー隊の隊員が和気あいあいと交流して盛り上がりました。



おめでとう!! 33 名の仲間が友情章を授与されました。

「友情章」は、君の友達に「スカウトになろうよ!」と言って、
友達がスカウトに入るともらえる章です。

記念品はネームプレートがもらえるよ。次は君が友達を紹介して「友情章」をゲットしよう!

平成 27 年 9 月度「友情章」顕彰者名簿

組織拡充委員会

氏名	地区	所属	氏名	地区	所属
河守 優花	志太	大井川第3団 CS	服部 凌 駕	三島	三島第5団 CS
青木 謙 心	志太	大井川第3団 BVS	酒井 七 華	三島	三島第5団 CS
伊藤 晴 美	磐田	磐田第3団 BVS	奥村 蓮	浜松東	浜松第30団 BVS
兼子 拓 弥	磐田	磐田第3団 BVS	大石 真 緒	清水	清水第10団 CS
大橋 悠 生	磐田	磐田第3団 BVS	杉本 千 夏	清水	清水第17団 CS
渥美 綜 亮	磐田	磐田第3団 BVS	濱 稜 空 人	清水	清水第17団 CS
浦上 穰	磐田	豊田第2団 CS	駒坂 利 久	三島	大仁第1団 CS
山田 和 奏	浜松	浜松第12団 CS	西湖 勇 惺	三島	大仁第1団 CS
勝間田 琴 菜	富士宮	富士宮第5団 BVS	高木 芯	三島	大仁第1団 BVS
田口 璃 奈	富士	富士第4団 BVS	田代 朋 大	磯崎・小	小山第1団 BS
竹口 湧 音	富士	富士第11団 BS	齋藤 響 麒	沼駿	沼津第4団 BVS
生田 竣 哉	志太	藤枝第2団 BVS	粥川 李 朋	沼駿	沼津第1団 BVS
酒井 太 豊	静岡	静岡第2団 BS	井上 蒼 汰	沼駿	沼津第1団 BVS
藤田 侑 希	清水	清水第19団 BS	若林 由 菜	沼駿	沼津第1団 CS
横浜 宏 哉	清水	清水第19団 BS	山本 彩 花	沼駿	沼津第1団 BVS
山口 愛 琳	富士宮	富士宮第22団 CS	植松 真 海	沼駿	沼津第1団 BS
青木 美 滯	三島	三島第5団 CS			



おたい内せいこうえんのキャンプ

御殿場・小山地区 御殿場第2回ビーバー隊 繁澤 幸平

8月7日と8日にビーバーたいのキャンプに行きました。場しよはごてんばしにあるおたい内せいこうえんでした。

1日目のどうくつたんけんは、どうくつの中がすずしくて天ごくみたいに気もちよかったです。

2日目はじゅくうの森でハイキングをしました。かわいいカメレオンをみました。ちかくの川でおひるごはんをたべました。

夜のキャンプファイヤーでやったスタンツとうたは大せいこうでした。たのしかったです。



Tシャツに絵をかいてたのしかったよ

清水地区 清水第19回ビーバー隊 粉川 宗大

きょうは、キャンプにきていくTシャツに、絵をかきました。岩本たいちょうが、「キャンプに行くから、森のいきものをかいてみよう。」と、話しました。だから、ぼくはビーバーをかくことにしました。りゅうは、ビーバーたいのぼうしにのっているからです。ぼうしを見てかいたけど、ちょっとへたになっちゃいました。

できあがったTシャツをみたら、うれしくなりました。Tシャツをきたくなくなりました。キャンプに行くのがたのしみです。



キャンプ in なら、ココの里

浜北・天竜地区 天竜第1回カブ隊 鈴木 洸希

今年の夏もとてもたのしみにしていたカブスカウトのキャンプへ行ってきました。まず、テントを張りました。一つ目はむずかしかったけれど、みんなで協力してなんとか張ることができました。三つテントを張りましたが、だんだん慣れてきて、三つ目のテントはとても上手に張ることができ、とてもうれしかったです。夜は料理にもちょう戦しました。家ではほとんどやらないことだったので、野菜を切ったり料理も楽しかったです。そしてみんなでカレーを食べました。仲間と食べる食事は、とてもおいしかったです。二日目は工作や川遊びをしました。川遊びではみんなで順番に飛びこんで遊んだりして川遊びをまんきつできました。ぼくは来年からは、ボーイスカウトなので、もうこのメンバーでは最後のキャンプでした。さびしいですが、もっと、成長できるようにがんばりたいです。



サマーキャンプの川遊び

磐田地区 磐田第10回カブ隊 山本 陽介

キャンプ地周辺の川は、きれいで遊べます。ぼくたちが住んでいる所では遊ぶことができません。

川にはカニと魚がいました。1日目に魚のトラップを使い、しかけました。カニをたくさんつかまえました。しかし、ふくろを持っていなかったでボーイ隊の人のゴーグル入れに入れて持ち帰ることにしました。

それから、ぼくはたまご付きのカニを見つけました。祐輝君に教えました。祐輝君は、たまご付きのカニも食べようと考えてました。でも、ぼくはたまご付きのカニは赤ちゃんが生まれるのでにがてあげたいと思いました。川遊びが終わり、帰る時に祐輝君がカニを落としたのでなんとか食べられずにすみしました。ぼくは安心しました。

あみで魚をつかまえようとしたけれど、魚はすばしこくてつかまえられませんでした。

来年のキャンプ地も川のきれいな所だといいです。



「女性指導者セミナー」
「ヤング指導者セミナー」を開催



県連盟主催の2つのセミナーが、8月29日(土)に静岡県青少年会館で開催されました。

第1回女性指導者セミナー

女子スカウトの登録が開始されてから早や20年が経過してスカウト活動における女性の比率も年々高くなってきており、女性指導者が活躍する機会も増えてきています。

その反面、女性指導者特有の苦勞・悩みも増えていると考えられ、女性の視点での意見交換・意見具申をして頂く場として初の「女性指導者セミナー」が開催されました。

県内各地から24名の女性指導者が参加して、スカウト活動の組織・隊の特徴などの基礎知識のレクチャーの後、グループ討議での活発な意見交換が行われました。

参加した指導者からは、

- ・県内初の女性だけの集会で、各地区の女性指導者と話しが出来て良かった
- ・こうした機会を多く設け、参加する女性指導者を増やす努力が必要
- ・参加者を増やすには、参加しやすい雰囲気作りと女性独特の「良い口コミ」が大事などの意見が寄せられました。



ヤング指導者セミナー

このセミナーでは、スカウト活動活性化の柱のひとつである若手の指導者育成を目指し、ベンチャー隊のプログラムプロセス・スカウトのニーズ発掘方法・隊集会の計画・英国エディンバラアワードなどの講義が行われました。

参加した若手指導者の声は、

- ・グループワークでの指導者経験豊富なリーダーとの意見交換で、スカウトとの接し方など、具体的な手法を学ぶことが出来た。
- ・エディンバラアワードは、ローバーの活動として挑戦したい。



おしらせコーナー

団委員実修所第 16 期

- 期間：平成27年11月21日(土)
～23日(月・祝)
- 場所：三島市立箱根の里
※参加者募集中

安全セミナー 静岡第7期

- 期間：平成27年11月29日(日)
- 場所：静岡県青少年会館

静岡子ども体験フェスティバル

楽しい体験活動がいっぱい!特色を活かしたたくさんの楽しい体験遊びを用意してお待ちしています。

①朝霧野外活動センター

(富士市根原1)

- 実施日：平成27年11月1日(日)
10:00～15:00

●出展予定:

プラネタリウム、ミニオリエンテーリング、バター作り、火おこし体験、トラクターツアー、乗馬体験、富士山世界遺産出前講座 など

②清水マリンパーク

(静岡市清水区日の出町9-25)

- 実施日：平成27年11月15日(日)
10:00～15:00

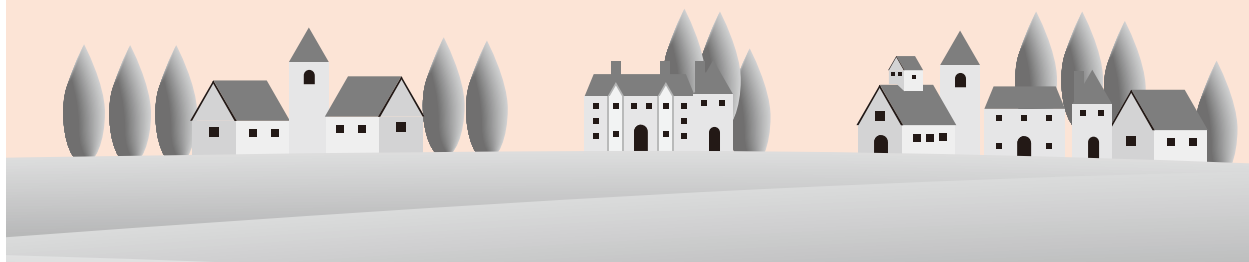
●出展予定:

大型段ボール迷路、動物クイズ、土だんごづくり、似顔絵教室、防災グッズ作り、水ロケット、オリジナル缶バッジ作り など

問合せ：静岡県「体験の風をおこそう」推進事業実行委員会

(御殿場市中畑2092-5 「中央青少年交流の家」内)

TEL:0550-89-2022 E-MAIL: fujinosato@niye.gp.jp



ボーイスカウトへのお問い合わせ・入隊希望は

ボーイスカウト静岡県連盟事務局 (☎ 054-255-6185) まで

ホームページもご覧ください。http://bs-shizuoka.com

編集後記

多くのスカウトが、23WSJ、そして「ホームステイ」でたくさんの外国スカウトと交流し、世界に広がるスカウト活動の素晴らしさと楽しさを体験した。この感動を忘れずに、今後も積極的にスカウト活動に取り組んでいって欲しいと思います。

「たちばな」チーム一同

広報「たちばな」2015年10月

発行所 一般社団法人日本ボーイスカウト静岡県連盟

編集責任者 広報委員長 松田 茂
〒420-0068 静岡県静岡市葵区田町 1-70-1
県青少年会館内
TEL054-255-6185 FAX054-255-6186

印刷 三富印刷株式会社
静岡県浜松市東区上新屋町 30-1 TEL053-467-4678

発行部数 0,000部